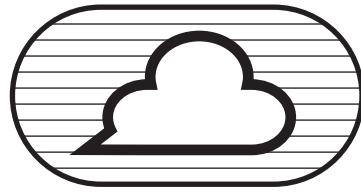


客観的な検証が必要

家庭用塩



くもり

と暮らしを結ぶ運動協議会」を立ち上げ、夏場の熱中症対策を中心に塩の正しい知識の啓発活動をスタートした。昨年6月のソルトシンポジウム（アメリカ・パークシテイ）では、「塩と

縮小傾向が加速する。人口縮小に高齢化のダブルパンチに、家庭内食の減少、持ち帰り惣菜の拡大などライフスタイル変化が直撃する。医師による減塩推奨の壁も立ちはだかる。一方で、業界では一昨年5月に「塩

健康」がクローズアップされ、減塩の安易な新興は人体に及ぼす影響の客観的な検証が必要との指摘が出された。ただし、当面は逆風が続く。

1人当たり・1日の食塩摂取量推移 (1歳以上)

